

第 47 回 高畑山から倉岳山

第 5 支部 東邦化成 (株)

理事長 磯部 進

平成 22 年 6 月 20 日 曇り

ハイキング同好会もお陰様で、今回で 47 回目を迎えることとなりました。乾さんが作っていただいた案内に目を通すと、前道志山塊とあります。南側の道志川と北側の相模川の上流である桂川に挟まれた山塊が道志山塊ですが、二つの川の間更に谷があり、その南側が道志山塊、北側が前道志山塊であります。

H を横にしたような形で二つの川の間谷は東より相模川の支流の秋山川、西より桂川の支流の朝日川、その上流の大旅川、大井川らによって左右から抱きこまれたような地形です。簡単に言えば県道四日市場上野原線で分けられていることが分かります。このように地形はかなり複雑で幾つもの峠が密集するゾーンであり、谷の東はリニアモーターカー実験線の東側の起点となっています。

さて、高畑山 (標高 981.9m)、倉岳山 (標高 990.1m) と、しぶい選定だけに参加者は少なからうと思いつつ中央特快を高尾で降り、中央線に乗り換えしました。目指すは鳥沢駅。何度も通っている訳ですが、鳥沢の名前は記憶にありませんでした。中央線に揺られながら、上野原より先なんだとか、猿橋の手前なんだと認識しつつ、ひなびた無人の鳥沢駅に到着しました。

6 月 20 日 8 時 21 分に、鳥沢駅に集合したのは、初参加の第二支部宮本塗料店の宮本氏に、いつもの秦氏、原夫人、小川氏、山本事務局長、乾幹事そして磯部の 7 名でした。私は当初より 10 分早いスタートが効いて、高尾では 35 分早い大月行きに乗ることができました。7 時 46 分に到着。8 時 21 分に到着する参加者を待ちました。きっちり 8 時 21 分に一人のキャンセルも遅刻も無く全員が集合しました。トイレも済ませ、8 時 35 分には出発しました。

今回は梅雨の真最中ということで、お天気は諦めていましたが、なんとか曇り、アルコールとつまみの確認後、駅前のコンビニで少々のお酒を仕込み、歩き出しました。宿場町の面影のある町から折れ、JR の線路をくぐり、国道より立派な県道から桂川を渡り、しばらく歩くと厳重なフェンスのある登山道入口に出ます。

厳重なフェンスはすぐ上にある貯水池の入口でもあるからで、我々はすぐ横の通り戸から入りました。貯水池の堰堤の下を抜けると、広いゆったりした登りの道が、徐々に狭くなり、本格的な登りが始まります。

30 分ほどで石仏のある分岐に出ます。まっすぐ行くと高畑山と倉岳山の間にある穴路峠。我々は右の高畑山への直登ルートを行います。九十九折りの急な登りを行うこと 1 時間 20 分。なんとか昼前に全員が高畑山の山頂に到着しました。

10分ほどの休憩後、次の倉岳山に向けて出発です。約30分で穴路峠に到着。ここまでは順調でした。ここからコースタイム20分の道のりは私と小川氏は足が攣ってしまい、倍の40分も掛かってしまいました。

初参加の宮本氏は高畑山、倉岳山には何回も来ていらっしゃるベテランで、久々にポイントでのメモを取られる姿を拝見しました。脚力も素晴らしく、是非、今後もご参加いただきたいと思います。宮本氏と話をしていたら、「東塗商だより」への報告がネックであるということが分かりました。報告は当日の参加者の中からお願いしているのですが、無理にお願いしていることはごさいませんとお伝えしました。

さて、倉岳山の広い山頂では、すでに乾氏、宮本氏、原夫人の健脚3人組に秦氏、山本氏を加えた5人が昼食準備中。遅れた小川氏と私が到着したところで、パーティーとなりました。買って来たおにぎりに手を付けるよりも、各種のアルコールとおつまみをいただくのに追われた昼食タイムでした。

アルコールを飲み切れずに1時10分に出発。立野峠に1時30分到着。JR梁川駅を目指す長い下りとなります。約1時間で、登山道からアスファルト舗装の林道に出ました。ここで小休止中に乾氏より電車の時間が迫っているとのことで、即出発となりました。

足を攣ってしまった痛さから、ペースを上げられず、やっとの思いで梁川駅の改札をくぐり、横断橋の階段に取り付くと同時に登り電車が入線して来ました。足の痛さも構わず一段抜きで登り、何とか全員が間に合いました。

このような慌しい行動は私の性に合わないと思いつつ、そのまま相模湖駅前の「かどや」に直行です。

先行して到着し、一杯やっている宴会のみ参加の若林氏に合流して15時15分に、全員で乾杯をし、打ち上げが始まりました。宴会後の帰りは事故も無く？忘れ物も無く？元気？に途中途中で乗換えのため、三々五々帰って行きました。